タイ環境学習キャンプ 2025 報告

８月		活動内容
17日(日)	成田→バンコク	シリワット先生、チナタッタ先生との会食
18日(月)	バンコク→バンライ（パンダキャンプ）	チャオプラヤー川クルーズ
19日(火)	パンダキャンプ	ワークショップ １、色画用紙のポシェット作り（子供向け） ２、染色の実験（子供向け） ３、菌類について（大人向け）
20日(水)	パンダキャンプ→ ファイ・カ・ケン野生生物保護区	野生生物保護施設の見学 ゾウや野生の牛（バンテン）などの観察
21日(木)	ファイ・カ・ケン野生生物保護区	トレイルウォーキング、水遊び
22日(金)	ファイ・カ・ケン野生生物保護区 →パンダキャンプ	カレン族の部落訪問（ドリアン畑、民族衣装） タイマッサージ
23日(土)	バンライ→バンコク	バンライのマーケット見学 バンコクのビアホールでのチナタッタ先生とお別れ会
24日(日)	バンコク	バンコク自由行動
25日(月)	バンコク→羽田	

今回のキャンプは日本から親子参加者３組、大人３名の勢総９名。いつもタイで同行してくださる若林家族３名の計 12 名で行われました。野生動物保護区では、いつもは保護区内のヘッドクォーターの宿泊所に滞在するところ、レンジャーの研修があるということで保護区入口にある宿泊施設に滞在することになりました。施設は何とクーラー付きの新しい施設でとても快適に滞在できる場所でしたが、保護区入口にあるといっても最近はすぐ近くにゾウが出没するらしく、十分に注意するように言われ半信半疑に聞いていたたが、実際、夕食の帰りに宿舎のすぐ近くの道路をゾウが横断し茂みに入って行ったのを目撃し、非常に驚いた。長いこと保護区には来ているが、以前と比べ生物保護が進んでいるようで、ゾウ、クジャク、シーベット（ジャコウネコ）、バンテン（野生の牛）などの野生動物が比較的容易に見られるようになってきている。また、今回の施設や土堤でゾウを観察する場所など保護区周辺を野生生物が見られる所として観光化しようとしている様子も窺える。今回、親子参加ではあったが冒険学校の現役の参加者が参加してくれたりして参加者も多様化してきているがのは嬉しいことだが、大学生の参加者がいないのは少し寂しいと思う。　　　　　（中込貴芳　自然文化誌研究会副代表理事）

【参加者の感想】

その１　中学生の参加者

初海外の環境学習キャンプ
この環境学習キャンプでしかできないでよかったこと
理由→カレン族の民族衣装を着ることができたから。
民族衣装は一つ一つ模様が違うからワクワクでした。

見られて、行けてよかった場所

其の一　野生動物保護区
理由→育児放棄や密輸されたクマやトラ、イグアナにさいちょうなど数多くの動物が集まっている。其の中でも、見られるポイントに行かないと見られなかったクジャクや象は迫力がありました。

其の二　ワットポー（お寺）
理由→日本とタイのお寺の違いを感じました。日本の大仏は金ぴかで維持することはないが、タイの大仏は金ぴかのまま維持をしていました。ガイドブックを見て金ぴかなのを知っていても金ぴかで驚きました。

食べられて良かったもの

・ドリアン→最初は柑きつ系の食べものだと思っていたが、ねっとり系でおいしかった。
・パッタイ→平べったく半透明の太麺の焼きそばのようなものです。もちもちで美味しい。
・マンゴーライス→マンゴーと甘めのもち米で食べました。合うのか不思議だったけれど美味しかった。
・パンダン→緑でバニラののような味がするので不思議な感じがしました。

その２　母親　タイ環境学習キャンプに参加して

日本とタイでは、地理的条件、気候的条件、経済的条件などが違うので、当然ながら環境教育へのアプローチも違うのですが、その違いを実地で理解できて、すごく良かった。
勉強になりました。でも、日本でも取り入れられることは大いにあると思う。
野生生物保護区にも行ったら、野生のゾウ、シカ、孔雀たち…トラやヒョウが生息している痕跡。
英語では、ワイルドライフ　サンクチュアリ　になるのね。サンクチュアリ。すごいしっくりくる。
その一方で、自然保護区のために、先祖代々の土地から追われた少数民族もいるという。
勝手に開墾したり、狩猟されたら困るから。
どんな問題にも、一直線の「絶対的な正解」はないけど、学んで理解することは大事だと思う。

そして、タイ料理がめっちゃ美味しすぎる！！
あと１週間はタイ料理を食べ続けられる！って言ってたら、ココさんは
「日本食が恋しい…」だそうで、それって私の手料理が恋しいってこと？！　中２女子が可愛いこと言うじゃない！と思ったら、
「サイゼ行きたい…」
オマエ、それはイタリアンだ。
あぁ、ハーブとナンプラーの味が、早くも恋しい…。

（参加者の内原章子さん（うっちー）のイラスト報告です）